

JR東日本(会社)がJR東労組に対して、「今後の労使関係の基礎的条件6項目」を提起し見解を求め、JR東労組が支離滅裂な一次回答をしたことは既報のとおりである(民主化闘争情報No.987)。去る3月13日、申15号(具体的な賃上げ要求)に関する第3回団体交渉が行われ、会社の「勤労速報(3月14日付)」及びJR東労組の「業務部速報No.71(3月13日付)」で紹介されている。JR東労組は「6項目」に対する見解(持ち帰り検討した二次回答)を披露したようだが、ここでも‘言行不一致’ぶりを露呈し、会社が厳しく応じた模様だ。結局、JR東労組は「回答指定日」としていた3月14日に回答を引き出せず、連合の加盟産別の単組が次々に回答を引き出し成果を獲得する中、周回遅れの様相を呈している。これでは、会社も回答しようがなからう。

論理は破綻していても、組合員は気付かないと思ってる?!
いつの間にやらスト権は「失効・消滅」したらしい
～組織温存のため、再び‘コペルニクスの転回’で従順路線か～

会社が提起した6項目のうちの1つ目は、『労働組合の権利に介入することはできないが、紛争状態の根源的解消を図り、労働協約に則り、労使間の諸問題は速やかに団体交渉における話し合いにより解決すること』であるが、JR東労組は『労使間の諸問題について話し合いにより解決することは、組合としても異論ない。』と言行不一致の回答をしている。スト権については、JR東労組は『「紛争状態は解決」し、「格差ベア問題も解決」し、結果、失効・消滅した』(!)と回答したようだが、会社は「本部と異なる考えも一部からは聞こえてくる(スト権は有効という認識の地本がある)」と返し、矛盾を指摘。これに対してJR東労組は「12地本で統一している。組合が大会等で決定する方針云々に、会社が立ち入るべきではない」と逆ギレしたようだ。

未だに「スト権行使」を強硬に主張する地本も複数あるようだが…

何度も指摘しているとおおり、「ベアの考え方」等において、労使の‘認識の一致’など存在せず、「格差ベアに終止符が打たれた」わけではないのに、JR東労組は事実反する喧伝、「紛争状態は解決した」との一方的見解を繰り返し、スト権行使指令解除の理由にしている。しかも、スト権行使を一時的に止めただけでなく、スト権は「失効・消滅」したと言うのだから唾然としてしまう。組合員に階級闘争思想と戦術の技術継承・教育を押しつけてきた手前、もっともらしい理屈が無ければ「スト権行使」という拳を引っ込めることができないのだろうと推測するが、組織内部崩壊に動揺し、自らの論理破綻を嘘の上塗りで隠し、従順路線に転じて革マル色を隠す‘たこ壺’戦術へ転ずるタイミングでも探っているのか。会社が許す気配は感じない。

組織内部崩壊が進み、統率もできず、全体の組織人員は過半数割れ?!

3月9日、東京・八王子・水戸の3地本は、「労使の話し合い」など目もくれず、関係都県の労働委員会へ「不当労働行為の救済申立」を行い、労使紛争を一方的に悪宣伝し、連日機関紙で騒ぎ立てている。議論がかみ合わないのも無理は無い。